学校だより　１１月号　　発行日　令和8年10月30日

大志の学び舎

# 世田谷区立太子堂小学校

『教師は授業　家庭は愛情　地域で育つ　１１年間』

## させてみて 認め 励まさなければ 成長せず

校長　廣瀬　維謙

今からおよそ２０年前、家庭にあって学校にないものの代表的なものといえば、エアコンや洋式トイレ、液晶テレビなどが挙げられます。今では、どこの学校でもほぼ完備されています。では逆に、家庭ではあまり使っていないけれど、学校では普通に使っているものは何でしょうか。まず思い浮かぶのが、掃除の時間に使うほうきです。子どもたちは家で掃除機を使うことはあっても、ほうきで掃除をすることは少ないでしょう。大人でも、ほうきの正しい使い方を知っている人はそう多くないと思います。

次に思いつくのは、以前、理科の実験のときにアルコールランプなどに火をつけるときに使っていたマッチです。家庭では、ガスレンジはもちろんのこと、ＩＨヒーターも使われ炎自体を見る経験も少なくなってきているかもしれません。現在は、理科の教科書からはアルコールランプ（今は理科実験用ガスコンロを使用します）がなくなり、必要がなければ、中学校まで理科の授業の中でマッチを擦る機会がありません。今では子どもたちにとって、マッチを使えないことは当たり前のことなのです。

子どもにとって、できなくても当たり前のことはたくさんあります。大人と違って経験が少ないので、当然のことです。では、子どもたちがすぐにはできないことに遭遇したとき、どのように接すればよいでしょうか。前述したほうきの使い方やマッチの擦り方であれば、大人が丁寧に手本を示すことが一番有効です。

しかし、今すぐに手本を示せないこともあります。それは、結果がすぐに見えないものであったり、その成果を数字で表すことが難しかったりすることです。大人として一番よくないのは、手本を示していないのに、自分の都合や勝手な思い込みで、子どもが自分で考え、行動した結果を否定することです。子どもにとって経験がないことは、できなくて当たり前なのです。

では、大人が手本を示すことができないときには何が必要なのか…。それは、「まずさせてみて、どんな結果も認め、励まし、そして待ってあげること」だと思います。正直言って、これは大人にとって忍耐が必要なことでもあります。

でも、学校でも御家庭でも子どもたちを急かさずに、その考えや行動を認め、できるまで待っていきませんか。もちろん安全にかかわることであったり、人を傷付けてしまったりしたときには、毅然とした態度ですぐに子どもを指導することが大前提です。子どもたちは、私たち大人が、一人一人がもつよさや可能性を信じることで、必ず成長していくはずです。

今月もよろしくお願いします。

### １１月の目標

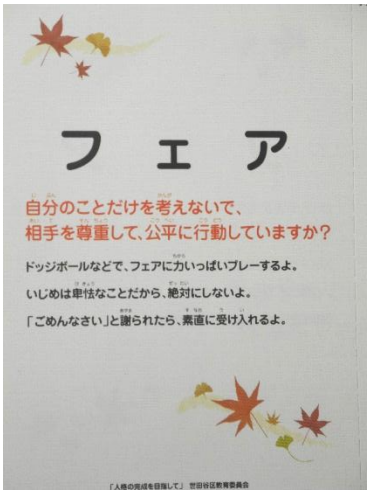
**人格の完成を目指して**
「フェア」

**＜安全＞**
・自転車の安全な乗り方を考えよう。

**＜保健＞**
・寒さに負けない体をつくろう。

**＜給食＞**
・感謝して食べよう。

**＜あいさつ＞**
・相手の顔を見て挨拶をしよう。




〒154−0004
世田谷区太子堂５−７−４
電 話 03（3413）4621
FAX 03（3413）4799
Email: dai004@setagaya.ed.jp